
白い走者

境康隆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白い走者

【Nコード】

N2836Q

【作者名】

境康隆

【あらすじ】

滅多に開催されないレース。そこにエントリーした白い走者は

一斉掃射の合図で打ち出された弾丸よろしく、僕らは同時にスタートを切った。

かなりの数の走者だ。

皆が一番にならんと、力の限りの力走を開始した。長い道のりなのに皆が最初から全力疾走。このレースに賭ける意気込みが伝わってくる

という訳でもない。

それは昔の話だ。今は皆何だかだらだら走っている。

多くのことに本気になれない。そんな今時の気質を表しているかのような僕らの走りだ。

ただエントリー側におくり込まれたから、とりあえず目的地を目指しているように見える。

僕もその中の一人だ。だが僕はこのチャンスを逃す気はない。

このレースに参加できるだけでも幸運なのだ。

多くの者は希望しても、レースに参加することすらできなかった。その無念を背負って僕は走る。

ただ真っ直ぐ目的地を目指すだけ。それだけのレース。参加者にもあまりやる気を感じられない。

それなのにこの参加者数のせいで、レースをすること自体がまるで障害物競走のようになっている。

それでも参加者は年々減っているらしい。レース自体もなかなか開催されないらしい。

エントリー側は気後れからなかなか走者を送り込まず、主催者は面倒くさがってレースを開催しない。

どっちもどっちの状況が、次世代の参加者を減らしているとも聞

く。
その上走者そのものに最近元気がないのだから尚更だ。

だが今の僕には気にしても仕方がない話だ。今はレースに集中する他ない。

まさにこれは生存をかけた競争だからだ。まさに人生を賭けた一度きりのレースだからだ。

僕はやはり障害物競争のようなこのコースを、押し合いへし合いしながらゴールを目指した。

ゴールが見えた。僕は自分の何倍もあるそのゴールに頭から突っ込んだ。

「男の子が欲しいな」

その時、レースの主催の声が聞こえた。

「女の子でもいいけど」

少なくともどちらかの願いは僕が叶えてあげる。

そしていつか次世代のレースを開催するか、もしくはそこに走者を送り込むのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2836q/>

白い走者

2011年1月26日14時24分発行